

5月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア

Dream通信

2010. 5. No.26



「夢追う子どもたちの家」 ～クメール正月帰省～



久しぶりの帰省にみんな笑顔です



先に出発する子どもをみんなで見送り



育ててくれた家に到着です

5月も半ばを過ぎ、カンボジアでは時々スコールが降るようになりました。雨季の始まりを徐々に感じる今日この頃です。

今回は、4月のクメール正月に行われた、子どもたちの帰省の様子についてお伝えします。

■クメール正月と帰省

カンボジアでは、1月1日は、国際正月と言われています。カンボジア人にとってのお正月というのは、4月の半ばにあるこのクメール正月のことで、この時期には市場や商店もたいていお休みになります。

首都からは、田舎に帰るためのバスがごった返し、お供え物をもって、お寺に行く伝統衣装を着た人々を見ることができます。

園ではこの4月のクメール正月と9月のお盆の年に2回、園に来る前に育ててくれていた親戚や育ての親の家に里帰りします。

普段は、園に遊びに来ることは禁止していますので、育ての親や親戚の方にとっても、子どもたちに会える貴重な機会です。

帰る前日には、子どもたちは大はしゃぎで準備をします。保母さんや、大きい子が、小さい子どもたちの荷づくりを手伝います。

帰っても家のお手伝いをするのと、毎日日記を書くことを約束をしました。しばらく園の友達とはお別れです。

一番遠い子は、片道4時間半の長丁場。みんなの無事を祈ります。

子どもたちのいない園は、とても静かでまるで別の場所のようでした。



地元の友達とも再開

帰省が終わると、みんな元気に園にもどってきました。一人の怪我もなく……というわけにはいかず、一人腕を怪我してしまった子がいましたが、その子も笑顔で園にもどってきました。

数日ぶりに会う園の友達と、お正月は何をしたの？という話題で盛り上がっていました。

お寺にお参りに言ったという子、川遊びをした子、久しぶりに地元の友達と会えたと喜び子、家のお手伝いをたくさんしてきたと得意げに話してくれる子…みんなが帰ってきて、また賑やかな「夢追う子どもたちの家」が戻ってきました。

次に家に帰るのは約半年後。それまでに沢山いろんなことを勉強して、成長してほしいと思いました。

■ルームリーダー制開始

「夢追う子どもたちの家」では、今月からルームリーダーを中心に、子どもたちが自分たちの園を自分たちで良くしていくことができるようにする事を目標とした、リーダーの教育を始めました。

現在子どもの部屋は8部屋あるので、8人のルームリーダーがいます。彼ら、彼女らに、まずはメモ帳を渡し、メモをとることから覚えてもらっています。

リーダーの子どもたちは、とても素直で、一所懸命メモを取っています。

園に問題が起こった時、レクリエーションで何かを決める時など、今までは職員側で何でも決めてきました。これからは、子どもたち自身で決められるところは決めるように、お互いに意見を出し合っている園にしていくために職員も子どもたちも真剣に取り組んでいます。

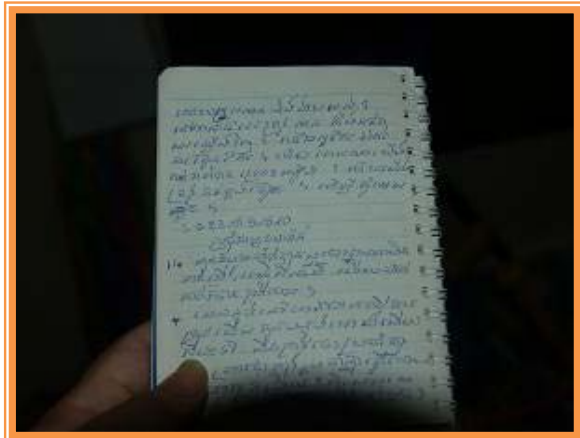
メモを渡してから10日が過ぎましたが、子どもたちのやる気は予想以上で、今まで以上に意見を活発に発表するようになり、進んで園のお手伝いをするようになりました。

開園から3年。子どもたちも74人にまで増えた、夢追う子どもたちの家は、皆様からのご支援を受けて、ますます進歩しています。

子どもたちが、将来自分の夢をつかむことができるよう、職員一丸となって頑張っています。



一所懸命メモを取っています



びっしりと書き込んだメモ帳



園の自慢のルームリーダーたち